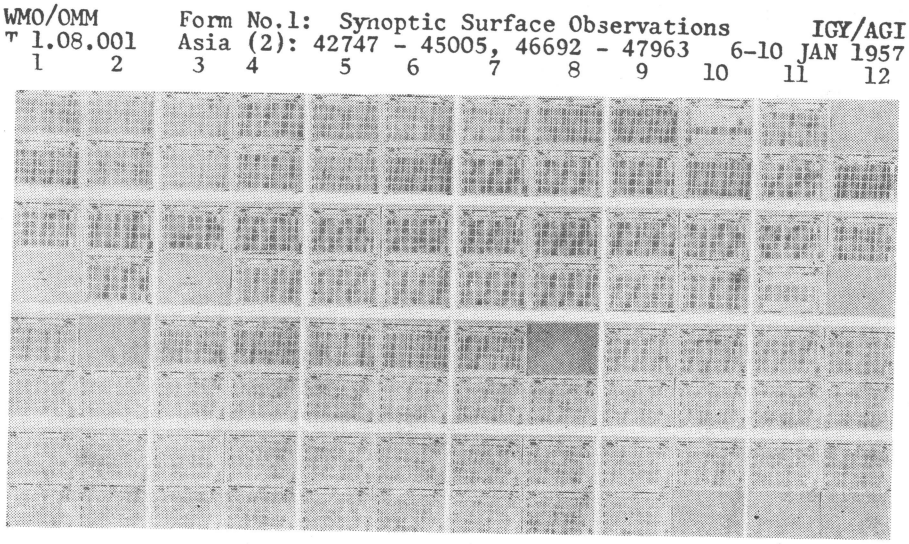
地方だより

高層課資料係・調査係

資料係の仕事は世界一正確なる資料と荒川博士から折紙をつけられている Aerological Data of Japan の出版である．まづ全国高層官署から集まった日々の報告を一つ一つ状態曲線を描いて点検し，誤りがあれば一々現地に照会した上で訂正する．たゞ怪しいから削ると云うわけではなく，訂正するのは夫々根拠がある場合に限るので仲々神経を使うし，観測や気象の知識も必要である．訂正を終った報告は外注してタイプしこれを校正する．首振りと云って時計の振子の様に首を振り乍らの読み合せは単調で骨の折れる仕事である．読み合せが終ると始めてオフセット印刷所に廻す事になる．ＩＧＹ資料も全国から集めてWMO資料センターに送る．これはマイクロカード化されて世界中に行き亘る．こう云ったじみな係では Aerological Data of Japan を皆さんが充分活用して下さる事を望んでいる．測候所に行ってこの本がほこりに埋まっているのを見るのは余り良い気持ではない．最近はＩＧＹ後始められたオゾン観測資料もこれに収録されることになった．

調査係では高層観測に必要な調査業務としてＩＧＹ資料の整理をやっている．ＩＧＹは大変な労力を費して行われた世界的事業であり，日本もそれに協力したわけだから，結果の整理にも協力して，その成果でも世界に恥じない収獲を得なければならない．その一つは 18000枚に及ぶマイクロカードの資料を写真的に引伸してパンチカードにして 704電子計算機で研究が行えるように整備する事である．パンチカードの枚数は 1500000枚になるのだからこれを作る準備だけでも大仕事である．これが完成した暁には大循環や東亜地域の循環について諸々の問題が日本人の手によって解析され，ＩＧＹの成果の面でも世界に貢献出来る事が期待されるわけである．も一つの仕事は昨年11月のWMOのＩＧＹ作業委員会で日本に勧告された 140°E 線の Pole to Pole 及び 5°N 線に沿う太平洋地域の毎日の垂直断面図の作成である．この図には温位，混合比，風の成分等の誘導量も含まれているのでその枚数は3300枚に上り，やはりボリュームのある仕事で予報課や研究所にも分担されていて，世界的に権威あるものにしたいと張り切っている．なおＩＧＹ以外の高層関係の線図類，気象常数，ＣＡe の議題等高層関係の基礎的な諸問題も調査係の仕事であって，常に世界の状勢に遅れぬよう注意している．又観測網の検討，臨時観測の企画調査等もこの係の重要な仕事となっている．

（大井正一記）



（ほぼ原寸大）

マイクロカードの一例，これは地上資料のマイクロカードで小さい１駒が IGY Form 1. の１枚（大きさはＡ５）であり，この例では87枚分が収容されている．そしてこの Form 1 には１地点について５日分の１日４回の資料が含まれているから，このマイクロカード１枚は87地点の５日分の１日４回の資料が入っている．